



◇「札幌の成果と課題」を踏まえ、以下の3点を重視して学校での学びを改善していく必要がある。
○子どもが、学ぶことの意義や楽しさを感じ取り、自ら学び続けようとする意欲をもつこと
○子どもが、自ら考えたり表現したりするなどの多様な学びを経験し、思考力・判断力・表現力等を身に付けること
○子どもが、学び続けるための基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、新たな学びに自信をもって挑戦していけるようになること

◇学校での学びの質を高め、家庭と一体となって「学ぶ力」を育むことを目指して「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」を実施する。



令和2(2020)年度 さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

「札幌市教育振興基本計画」(H26年度～)に位置付けて推進

◆分かる・できる・楽しい授業づくりの充実

「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実

○自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の工夫改善を図る。
*「6つのセルフチェック」の活用による授業づくりの充実
*小学校5・6年生算数における少人数指導「算数にゴープロジェクト」の実施

学ぶ意欲の向上

知識の理解の質を高め、
資質・能力を育む
「主体的・対話的で深い学び」

「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実

○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、個に応じた指導の充実を図る。
*一人一人のよさや伸びを認める指導と評価の一層の充実
*生きて働く知識・技能の習得に向け、知識・技能の活用場面を位置付けた授業の充実

5つのポイント

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

*言語活動や体験的な活動等の充実
*ICTを活用した学習活動の充実

各学校が「学ぶ力」育成プログラムを改訂し実行

○各学校が、自校の児童生徒の「学ぶ力」の実現状況を踏まえて、指導方法等の課題を明確化し、改善に向けて作成したプログラムの改訂、実行に取り組む。(教育課程等への位置付け、指導方法の改善など)

具体的な改善策について
教育委員会が支援

教員の指導力向上
に向けた施策

札幌市教育課程編成の手引の活用
○新学習指導要領の趣旨及び小中のつながりを踏まえた授業改善の推進
・課題探究的な学習の指導展開例等を活用し、指導方法等の改善を支援

幼小中合同教育課程研究協議会等
○分かる・できる・楽しい授業の在り方を協議
○新学習指導要領の実施を見据えた教育課程の在り方について協議
・新学習指導要領に関する情報や実践事例の共有

札幌市教育研究推進事業
○分かる・できる・楽しい授業に関する研究の推進
○新学習指導要領の実施に向けた研究の推進
・教職員の協働による授業づくりに関する実践的研究の推進
・研究・研修の成果の発信
・校内研修支援

札幌市教員研修計画に基づいた研修
○授業づくりに関する研修の充実
・教職経験に応じた実効性の高い研修の充実
・指導資料等の活用の推進

◆校種間・学校間連携の充実～「小中一貫した教育」の実践による系統性・連続性のある教育の推進～

○指導内容の系統性・連続性を重視した教育課程の工夫改善 ○授業交流や合同研修会、「学ぶ力」育成に向けた取組の成果と課題の共有 ○学ぶ意欲や自己肯定感の向上に向けた異校種体験や交流
○「札幌市小中一貫した教育基本方針」を踏まえた、パートナー校を基本単位とした取組の推進

◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

学校・家庭・地域との連携強化

○家庭、地域への情報発信の充実
※「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、家庭や地域との共通理解のもとで「学ぶ力」の育成に向けた取組を推進
・リーフレット「さっぽろっ子『学び』のススメ」の配付と活用及び保護者説明用プレゼンテーション資料の配付
学校、家庭が一体となった子どもへの働きかけ等について具体化し、各学校の「学ぶ力」育成プログラムに位置付ける。
・各学校の取組状況についての情報発信の充実
・札幌市PTA協会をはじめとする関係機関との連携



校長会との連携強化

○双方向による「学ぶ力」の育成
※校長会との多様な機会における双方向の連携を強化
・各区の研修会等への指導主事の派遣
・各学校の研修会等の充実
(その他)
学生ボランティアの活用などの環境整備

改善

検証改善

検証改善サイクルの確立

評価

子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善 ～20の指標～

○教育施策や教育指導の改善に反映するため、札幌市全体の共通指標を設定し、子どもの学習状況等を把握するとともに分析する。

札幌市における子どもの「学ぶ力」の現状

国際的な学力調査から明らかとなっている日本の子どもの学力状況も踏まえつつ、全国学力・学習状況調査結果や札幌市学習実現状況調査等の各種調査結果を総合的に分析し、札幌市の子どもの「学ぶ力」について、「**札幌の成果と課題**」をまとめた。

参考 1

■札幌における全国学力・学習状況調査及び札幌市学習実現状況調査の傾向■

平成31(2019)年度全国学力・学習状況調査

小6、中3が対象 (H31年4月実施)
小学校調査は、国語及び算数
中学校調査は、国語、数学及び**英語**

札幌市学習実現状況調査

小5、中2が対象 (H30年2月実施)
小5では社会、中2では社会・英語について「基礎に関する問題」と「応用に関する問題」

【小学校】 ⇒国語、算数のいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」
【中学校】 ⇒国語、数学、英語いずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」
※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

【小学校】社会…期待される正答率(設定通過率)と「ほぼ同程度」
【中学校】社会…期待される正答率(設定通過率)と「ほぼ同程度」
英語…期待される正答率(設定通過率)を上回っている。

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

- ◆国語では「目的や意図に応じて内容を的確に捉え、中心を明確にして自分の考えをまとめること」、算数・数学では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」、英語では「聞いたり読んだりして把握した内容に、適切に応じること」など、身に付けた知識・技能を活用することについて、小中学校ともに課題。
- ◆社会・英語では、目的や状況に応じて、考えたことを表現することについて、小中学校ともに課題。

■国際比較による日本の子どもの学力■

TIMSS2015 国際数学・理科教育動向調査

小4、中2が対象
算数・数学、理科の
知識・技能の習得状況

【小学校】算数5位(49か国中)、理科3位(47か国中)
【中学校】数学5位(39か国中)、理科2位(39か国中)

「比較できる範囲で最も良好な結果であり、国際的に見ても引き続き上位に位置している。習熟度の高い児童生徒の割合は、前回調査に比べ増加しているが、他の上位国・地域と比べると、その割合は低い傾向。」

「算数・数学、理科について楽しいと思う児童生徒の割合が増加したり、『日常生活に役立つ』『将来、自分が望む仕事につくために、良い成績をとる必要がある』という生徒の割合が増加。」(文部科学省資料より抜粋)

PISA OECD生徒の 学習到達度調査

15歳が対象。義務教育修了段階で身に付けた知識や技能を実生活の様々な場面でどの程度活用できるか。

■数学的リテラシー

様々な文脈の中で数学的に定式化し、数学を活用し、解釈する個人の能力
2015年 5位(72か国・地域中) 2018年 6位(79か国・地域中)

■科学的リテラシー

科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力
2015年 2位(72か国・地域中) 2018年 5位(79か国・地域中)

■読解力

自らの目標を達成し、知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、**評価し**、熟考し、これに取り組むこと

2015年 8位(72か国・地域中) 2018年 15位(79か国・地域中)
○数学的リテラシー及び科学的リテラシーは、日本は引き続き平均得点が高いグループに位置。
○読解力は、平均得点が高いグループに位置するが、前回より平均得点が順位が統計的に有意に低下。

読解力については、2009年から2015年調査まで用いられた定義が変更され、「書かれた」という語が削除された。これは、問題がコンピュータ使用型に移行したことによる。

■札幌の子どもの学習習慣と学習意欲■

平成31(2019)年度全国学力・学習状況調査

■自分で計画を立てて勉強している子どもの割合は、**全国と比べ低い**状況ではあるが、**小学校においては上昇傾向**にある。

※()内は全国平均

H20年度:小52.2%(52.0%) 中37.4%(34.2%)
H31年度:小**69.6%**(71.5%) 中**46.4%**(50.4%)

■将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、**全国と比べ低い**状況であり、全国同様に下降傾向が見られている。

※()内は全国平均

H19年度:小81.5%(83.7%) 中69.2%(70.7%)
H31年度:小**81.0%**(83.8%) 中**68.3%**(70.5%)

■自分にはよいところがあると思う子どもの割合は、**全国と比べ低い**状況にある。※()内は全国平均

H19年度:小70.7%(71.5%) 中62.5%(60.5%)
H31年度:小**78.2%**(81.2%) 中**73.5%**(74.1%)

■難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合は、**全国と比べて低い**状況にある。※()内は全国平均

H19年度:小69.8%(72.3%) 中62.7%(62.0%)
H31年度:小**74.9%**(79.0%) 中**67.6%**(70.3%)

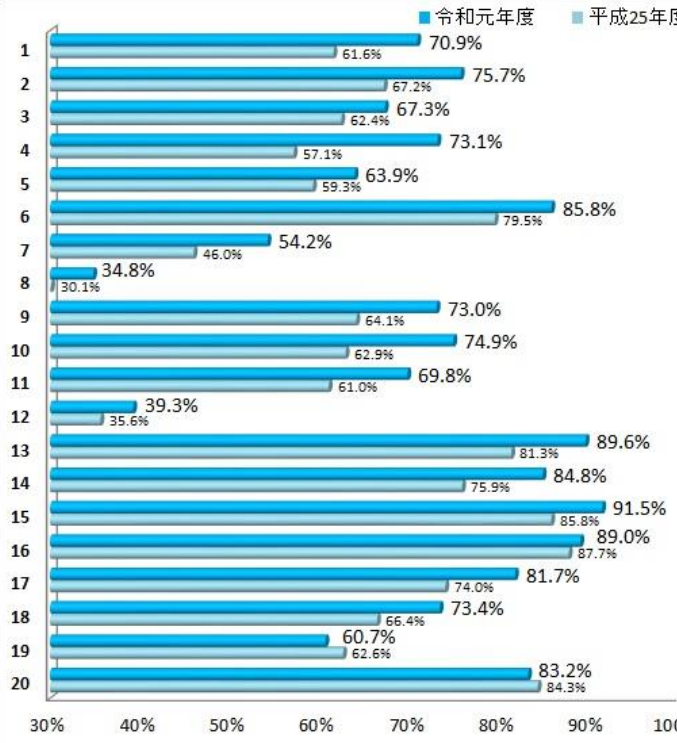
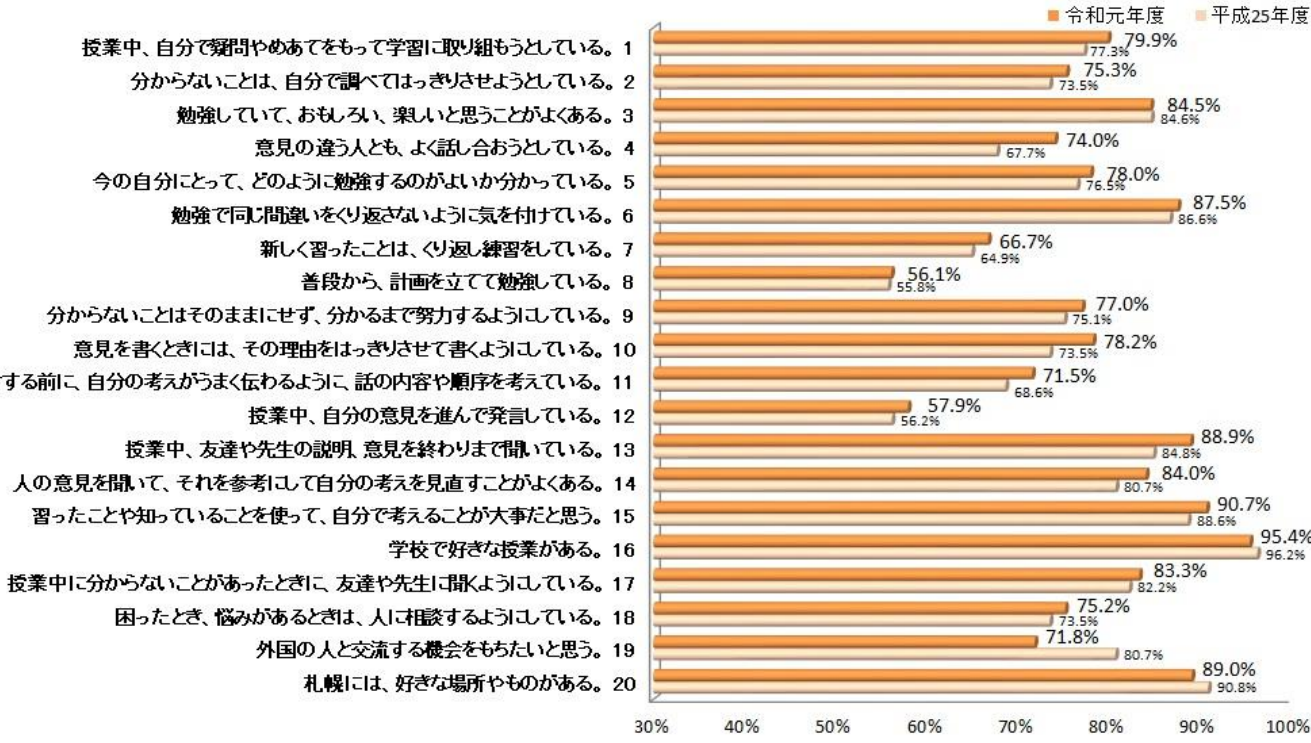
札幌市児童生徒の実態に関する基礎調査

- H29年度の調査では、家庭での学習時間について、「ほとんどしない」と回答した割合は、小5では今回の調査が最も低くなっている。
- 前回調査(H26)と比べて、中2と高2では2時間以上学習すると回答した割合は減少し、「ほとんどしない」と回答した割合は増加しており、学習時間が減少していることがうかがえる。

◆家庭での学習習慣については、意欲を高める関わりを一層行うとともに、生活習慣・運動習慣等と併せて改善を図ることが課題。

小学校

中学校



成果

- 調査実施初年度と令和元年度の結果を比較してみると、ほとんどの設問において**肯定的な回答の割合が高くなっている**。
- 過去7年の調査の成果として、中学校段階における肯定的な回答の割合で大きな上昇が見られており、小学校段階から継続して、「学ぶ力」の育成に取り組んできた成果であり、これまで以上に、中学校における授業改善が進んでいると捉えられる。
- 小学校においては、「**意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようになっている**」の項目において、肯定的な回答の増加が見られる。
- 中学校においては、多くの項目で増加傾向にあり、特に「**意見の違う人とも、よく話し合おうとしている**」の項目においては、調査実施初年度を比較すると16ポイントと大幅な上昇が見られる。
- 自ら課題をもち、互いに考えを伝え合いながら思考・判断し、課題を解決しようとする子どもが増えてきており、札幌市において**課題探究的な学習**を推進し、言語活動の充実を図るなどの「学ぶ力」育成に向けた授業改善が、各学校において**着実に進められている成果**と捉えられる。

課題

- 「**普段から計画を立てて勉強している**」「**授業中、自分の意見を進んで発言している**」の項目において、肯定的な回答する割合は、初年度調査に比べ高くなってきてはいるものの、他の項目に比べると**低い傾向が続いている**。
- 中学校段階になると、肯定的な回答が減少する項目が見られることを踏まえ、小学校で身に付けた力を中学校で更に伸ばせるよう、「学ぶ力」育成の5つのポイントや課題探究的な学習の6つのセルフチェックの視点からの授業改善を進めるとともに、小中学校が互いに授業を見合い、協議したり、「学ぶ力」育成プログラムを活用して目指す子ども像を共有するなど、協働的に「学ぶ力」の育成に取り組むことが重要。
- 学校と家庭が連携して学習習慣づくりを進めるため、学校の「学ぶ力」育成の重点や具体的な取組について、家庭・地域への情報提供を充実させるなど、「まほうのかいわ」が広がるような働きかけの工夫が重要。